

理研 サイエンスレクチャー

「理化学研究所(理研)」
を知っていますか？

物理学、工学、化学、数理・情報科学、計算科学、生物学、医科学など幅広い分野で研究を進めている、日本で唯一の自然科学の総合研究所です。この理研の研究者が楽しく興味深くお話をお届けします。

参加費無料

事前申し込み：不要 直接会場にお越しください

2019年8月25日

講演会 11:00 ~ 12:00 (10:30 開場)

函館市中央図書館 視聴覚ホール

函館市五稜郭町 26 番 1 号



微生物の力を利用して
農業へ貢献する研究

市橋泰範

理化学研究所 バイオリソース研究センター
植物-微生物共生研究開発チーム チームリーダー

理研サイエンスレクチャー

函館市中央図書館 視聴覚ホール 11:00~12:00 (10:30開場)

微生物の力を利用して農業へ貢献する研究

市橋 泰範 いちはし やすのり

理化学研究所 バイオリソース研究センター 植物-微生物共生研究開発チーム チームリーダー

人類は様々な農業に関する取り組みにより人口増加を支える食糧供給を大幅に改善しつつある一方、農地への過剰な施肥により農業由来窒素による環境汚染や土壌の劣化など、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会の弊害が指摘されています。加えてリン鉱石の枯渇傾向等が指摘されているため、安心・安全の食料生産を維持した上で農地への適正な施肥を実現する持続可能な循環型農業が求められています。植物の根圏は、地球上で最も微生物が豊富な生態系であり、菌根菌などの多様な植物種と共生して土壌中の養分を根に供給する有用な微生物が存在することが知られています。私たちは、植物と微生物の共生関係の理解が進めば、地球規模での持続可能な食料供給や環境負荷軽減への大きな貢献が期待できると考えています。本講演では、2018年度に発足した新チーム「植物-微生物共生研究開発チーム」で進める、植物と微生物の共生現象の実態解明と産業利用を目指した研究を紹介します。人類に欠かせない食。日本の科学者として、日本農業の匠の技を活用し、質の高い食を作り出し、人類の健康寿命を延ばす日本発イノベーション基盤を作ることを目指します。

※ 当日の講演会の様子を広報活動の記録としてスタッフが写真撮影します。撮影した写真は弊所のウェブサイトや印刷物に掲載することがあります。掲載の際は個人を特定することがないように顔は露出しないように配慮しますが、予めご承知の上で参加ください。また、各種メディアによる取材・撮影が行われる可能性がありますことも、予めご了承ください。

※ 未就学児の参加はご遠慮ください。

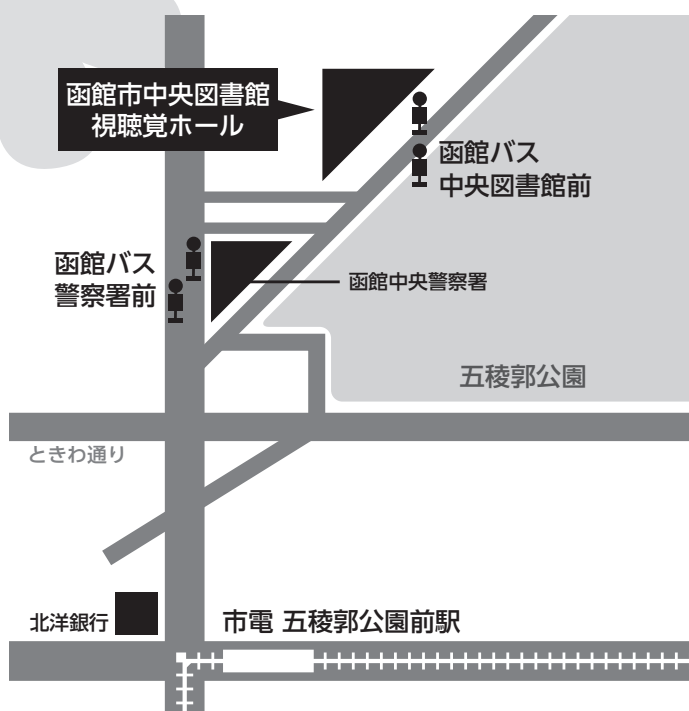
会場へのアクセス

函館バス

「中央図書館前」下車すぐ or 「警察署前」から徒歩3分

市電

「五稜郭公園前」から徒歩10分



理研ってどういう組織？

理化学研究所は、1917(大正6)年に財団法人として創立、現在は国立研究開発法人となりました。創立期のピストンリングに始まり、皆さまもご存じの洗濯洗剤アタックやスポーツ飲料VAAM(ヴァーム)など、理化学研究所の研究成果から生まれた製品は数多くあります。最近ではiPS細胞を使った世界初臨床研究をスタート、アジア初元素命名権を獲得した113番新元素「ニホニウム」発見、大型共用施設を有することなどで知られています。

主催 ■ サイエンス・サポート函館

国立研究開発法人理化学研究所

問合せ先 ■ 理化学研究所 広報室

埼玉県和光市広沢 2-1

Tel : 048-467-9443

Mail : event-koho@riken.jp

Web : <http://www.riken.jp>

科学道

Dreams to the Future

